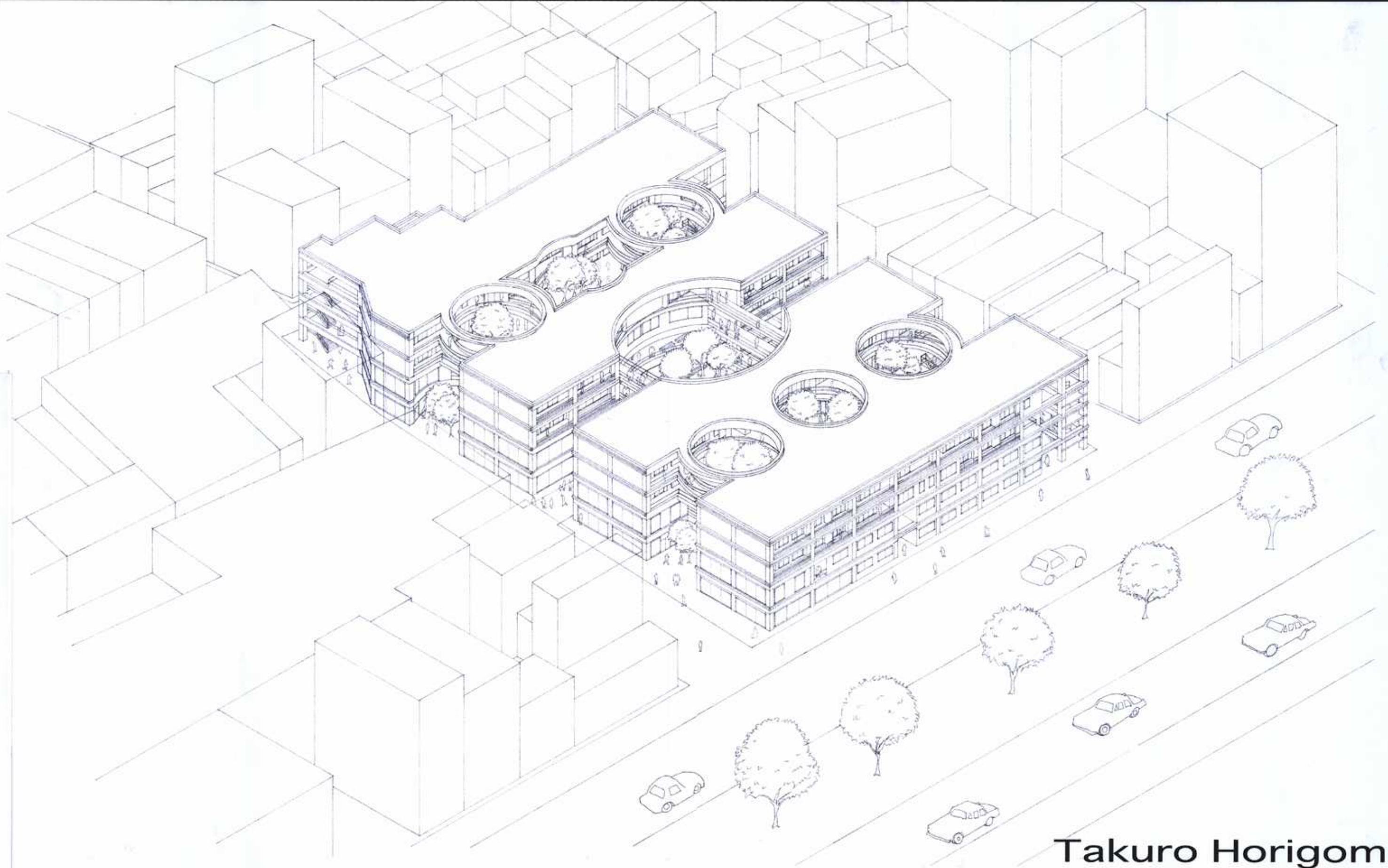


Interdependence



Takuro Horigome

Prologue

1998年10月「市街地活性化法」が施行されてから、はや4年という月日が流れているが「市街地の空洞化」という言葉はなくなっていない。全国各市街地では、様々な施策や取り組みが行われてきたがいっこうに回復の兆しは見え、市街地の空洞化は着実に進行している。市街地の商店街は、もはや壊滅状態である。

Concept Interdependence : 相互依存

過去に取り組みされてきた施策は主に来街者を増やす目的のものばかりであるが、市街地の空洞化を引き起こしている最大の原因は、市街地に人が住まなくなったことである。

近年、市街地に続々と高層マンションが計画され人が住み始めているが、市街地の商店街との関係性は薄く市街地に住みながら買い物は郊外のショッピングセンターに行ってしまう人もいる。もはや商店街は必要ないのだろうか。

壊滅状態である市街地の商店街に近年、多様化しているライフスタイルを可能とする住居を複合したComplexを計画する。商店街が客の底流を住人たちに依存し、住人たちは多様なライフスタイルを成立させるための機能を商店街に依存する。そこは、住と商が互いに依存しあうInterdependenceな関係が成立している。



Site

三重県四日市市。人口約30万人を有する北勢地域の中心都市で、古くから商業の街として栄え県内最大規模の商業集積を誇っている。四日市市の中心市街地区域(区域面積：185ha)は近鉄四日市駅及びJR四日市駅があり公共交通の拠点として大ターミナルを形成している。また、道路や駐車場など都市基盤や市役所、病院、博物館、文化会館、公園などの施設も充実している。近鉄四日市駅周辺は県下最大の商業集積地である。計画予定地は駅の東側区域の一角で敷地面積が5,710 である。

Street

敷地の北と西は、商店街のメインストリートにはさまれ、多少でも人の流れがあるので、人をひきこむVoidを北と西のファサードに配置した。一方、東側は旧東街道に面しているが、現在全くと言っていいほど人通りがない。そこで、建物内の人の流れを見せるファサードにして少しでも人の気配が感じることができればと考えた。また、南側のファサードは、都市に対する顔であり、さまざまな機能が顔を見せている。



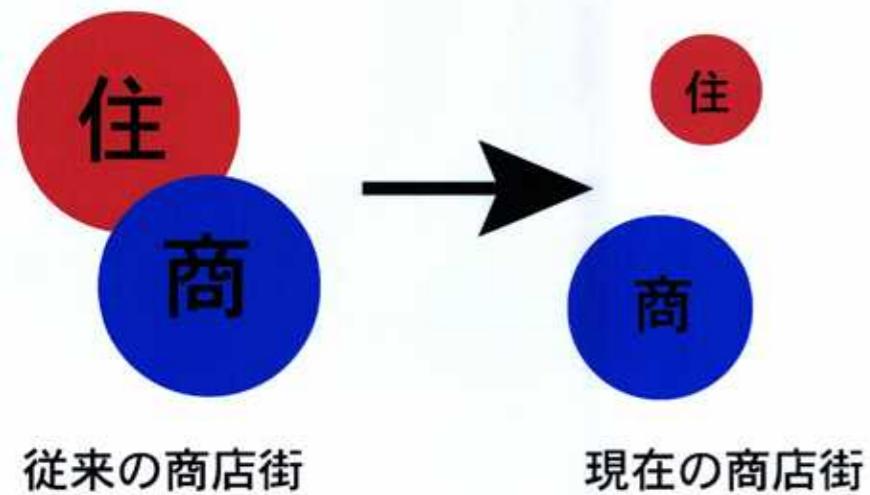
Void System

Total Co

互依存, 互いに頼りにしあうこと。

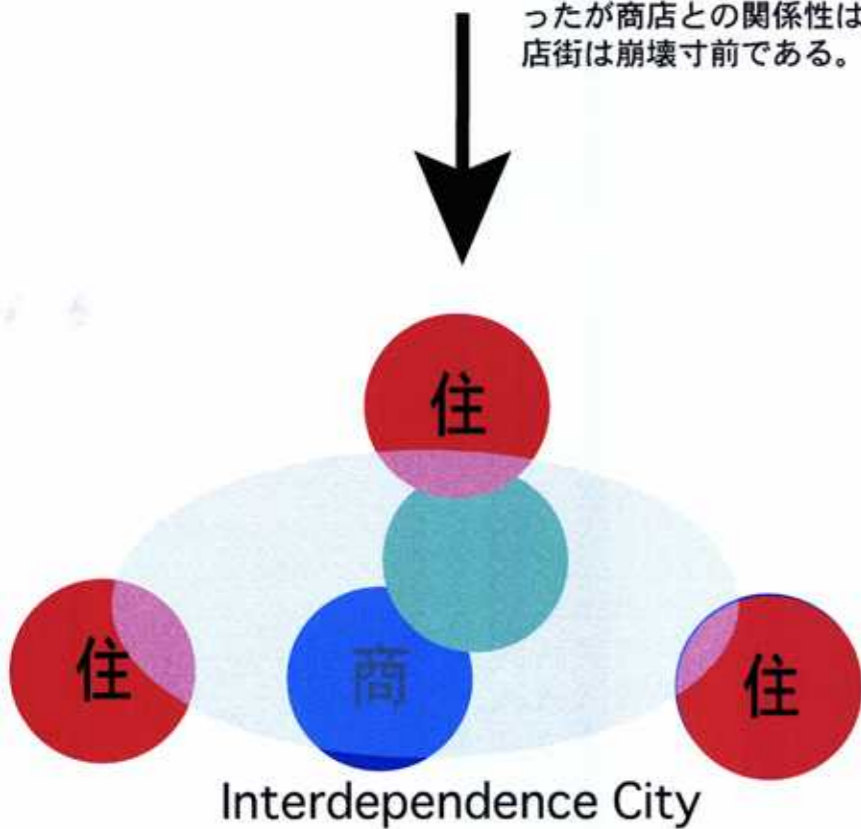
VoidをCoreに同じ機能の単位空間がまとまり、それぞれの顔を見せる。異なる機能をただつなげるのではなく、Voidを緩やかにつなげることで、複数の機能をComplexさせる。

大小さまざまなVoidが

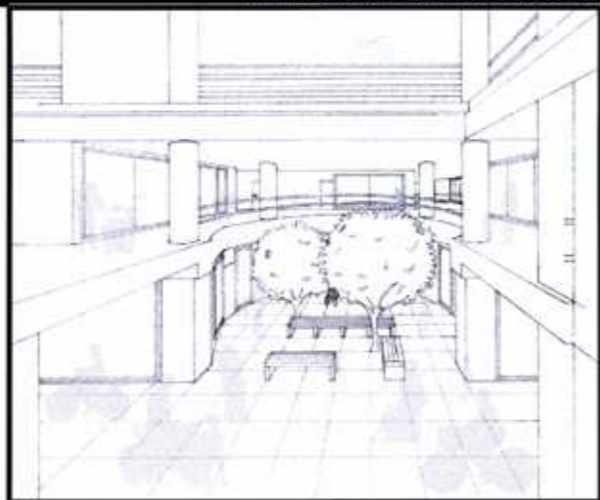


従来の商店街は、店主の住居が設けていて、店主の住居と商店みで構成されていたが、住人と店との関係性は大きかった。

現在は店主たちも居住を放棄したかたちになり、商店街の住人は非常に少なくなった。その代わりに、店主でない人でも住めるようになったが商店との関係性は弱く、商店街は崩壊寸前である。

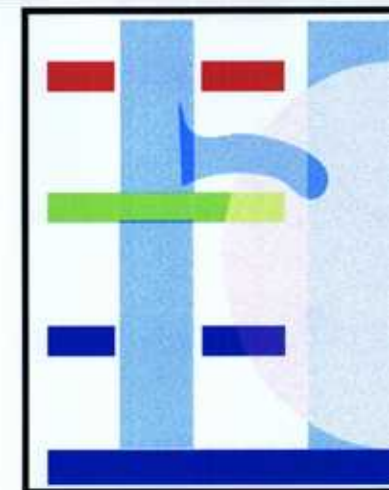
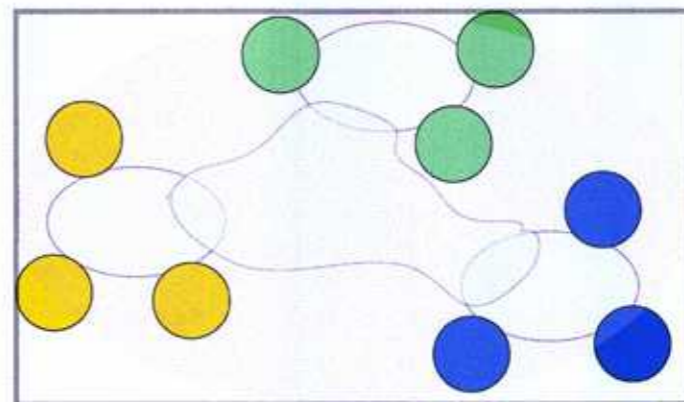


Interdependence Cityは住と商のみで構成されていた商店街に新たなサービス機能を導入し住と商の中間体として構成する。そして住人だけでなく、来街者もここにInterdependenceすることにより、住人と来街者のコミュニティの場となる。

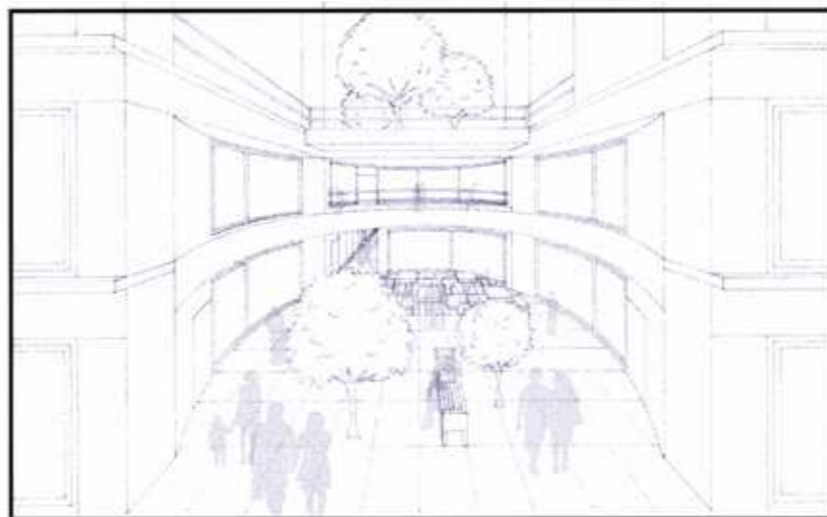


Daily Void

SupermarketやDrug Storeなどのが日常生活支援機能が立ち並ぶ 主婦の溜まり場。

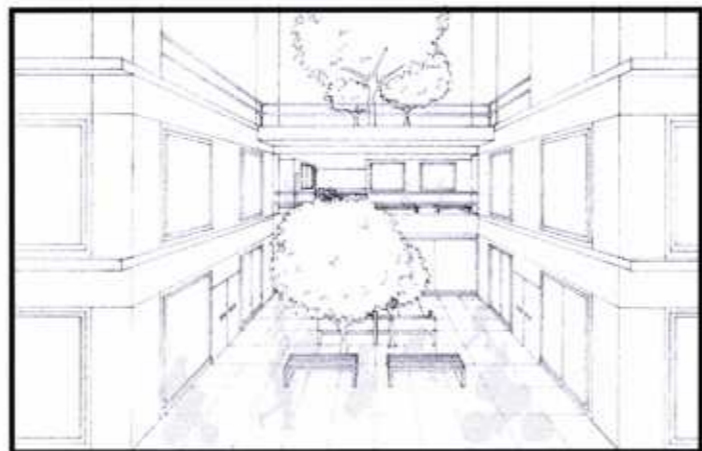


1st floorが商業専用、2nd floorがサービス機能、3rd floorがサービス機能



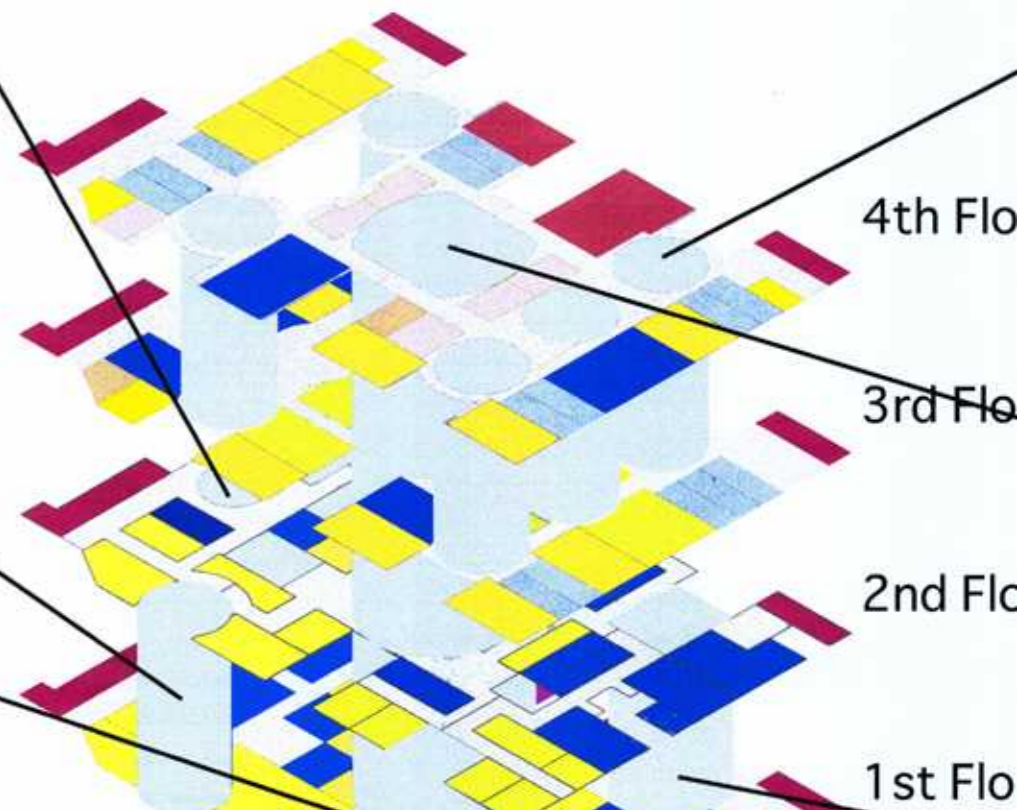
Eating Void

CafeやRestaurantが顔を見せるVoid。



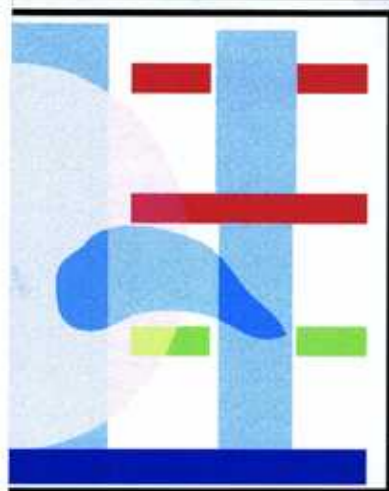
Entertainment void

vShopやBook storeなど人が滞留するVoid。2nd Floorは、Culture SchoolやMusic Studioなどのサービス機能が配置してある、Entertainment Void。

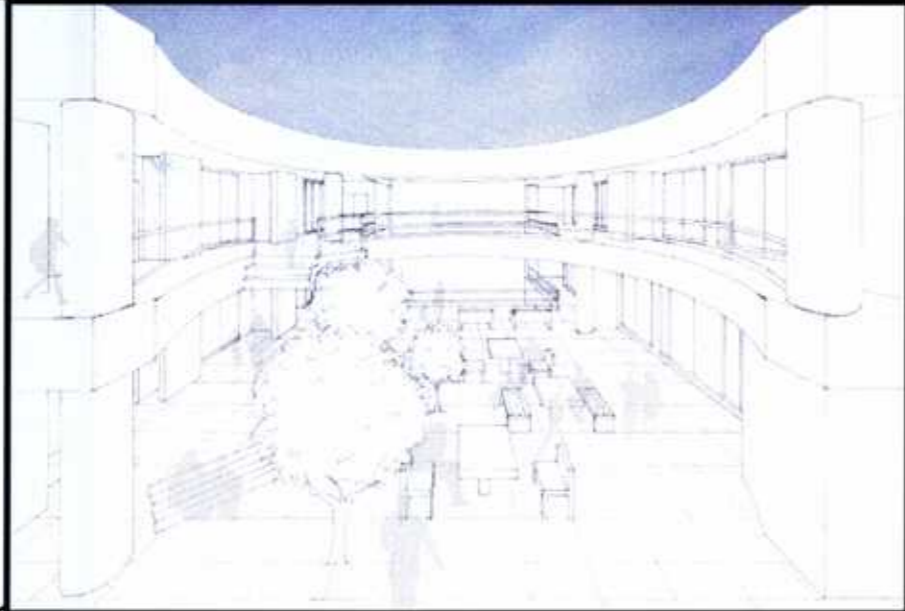


Composition

存在し、それらが緩やかにCentral Voidとつながり全体を構成する。

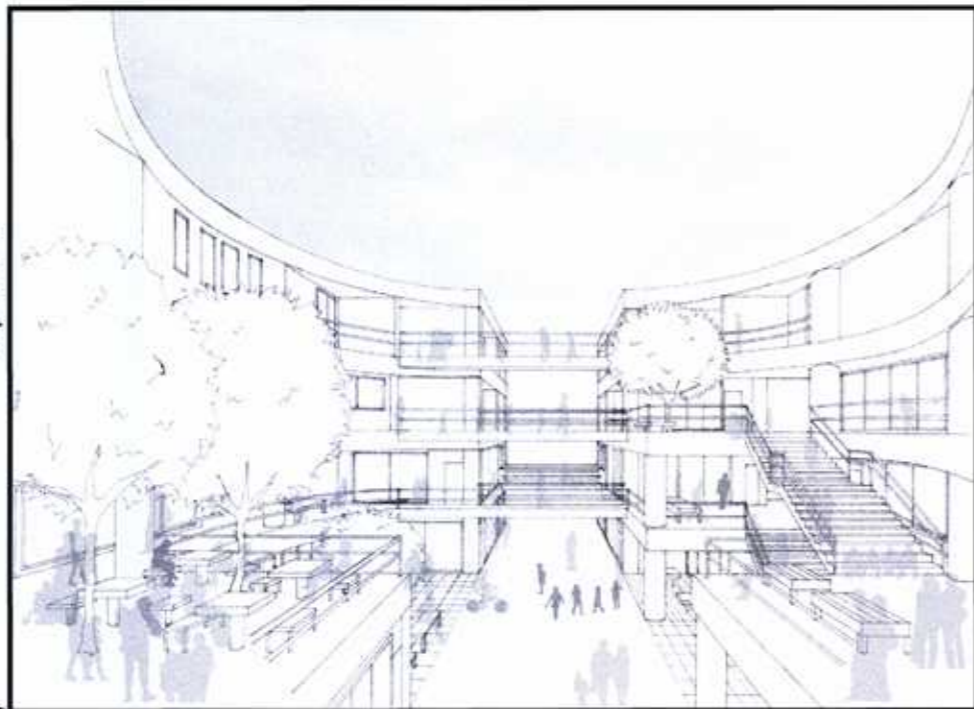


1 floorが商業とサービス機能、
2 floorが住居、4th floorが住居専用



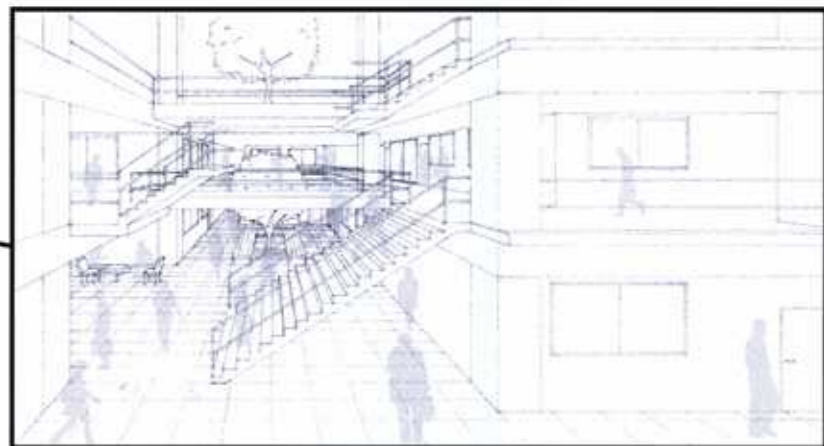
Central Void

この建物中心であり、それぞれのVoidが集まるVoid。そして、さまざまな人が交錯するコミュニティ空間である。



Office Void

銀行、郵便局、Officeなど、ここは働くVoid。



Unit Plan S=1:100

商店街に計画する住戸は、大きな庭や大きなリビング、大きな風呂は必要ない。必要ない。商店街のCafeがリビングになり、銭湯が大きな風呂にな

れば時間をもてあましている高齢者の雇用の場にもなったり・・・それらの必要な機能を商店街に依存すればいい。そうすることによって多様になっているライフスタイルを可能にすることができる。

Common Void

3rd,4th floorの住居も5~6戸でひとつのCommon Voidをもちそれぞれの住居がVoidに対して表情を見せている。

都市居住型誘導水準から2人用の居住面積48.5㎡を採用収納はTrunk Roomを設けているので、収納分の面積を差し引いた44㎡(内法面積)=5.3×8.3をLot単位とする。

2人用 (44㎡)



SOHO Type

住戸を南側に北側のスペースを自由に活用することができる。想定ファミリー
夫が退職して夫婦2人で第二の人生を楽しもう共通の趣味である絵を描くスペースがほしい。北側のスペースが夫婦のアトリエになり、余ったスペースをGalleryとして活用。近所の人に好評でそのうち絵画教室まで開いてしまった・・・。



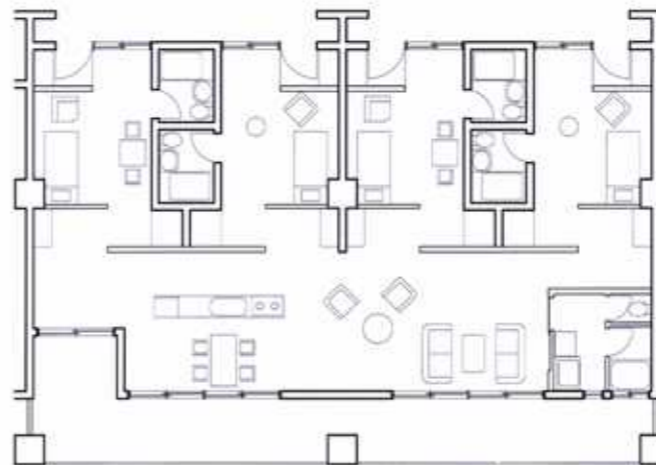
単身者用 (33㎡)

単身者の都市型居住水準の面積33㎡を確保



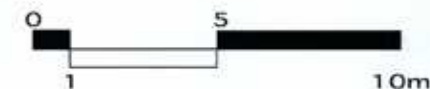
Group home Type

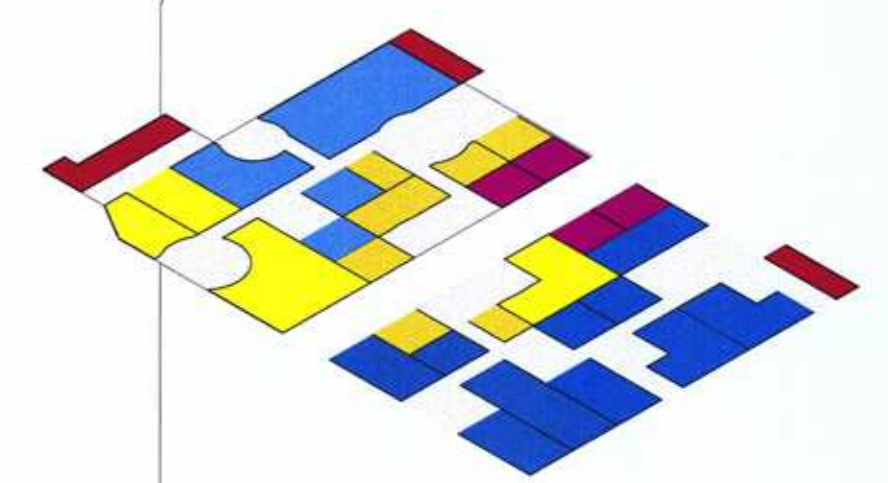
個人のスペースを確保し、大きなリビングやキッチンが設けてある。想定ファミリー
料理好きの単身高齢者4人が集まって生活。大きなリビングとみんなで使えるキッチンがほしい。そのうち1階の店舗が空いたのでみんなで食堂でも始めようか・・・。



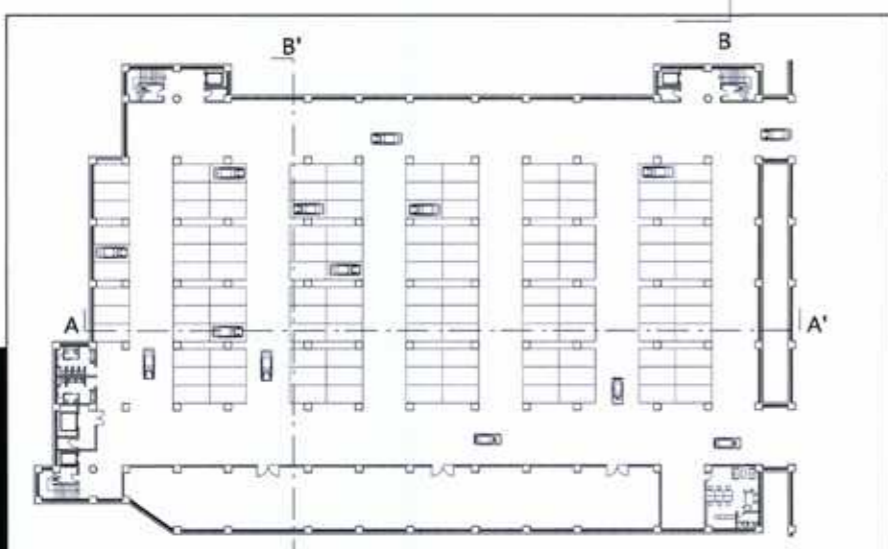
ファミリー Type

都市居住型誘導水準から子供が1人増えるごとに私室(7.5㎡)公室(5.5㎡)を増やしたType。





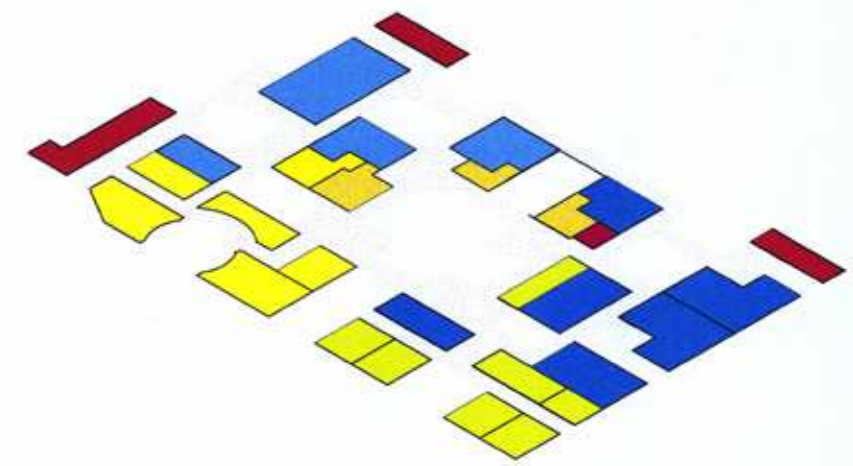
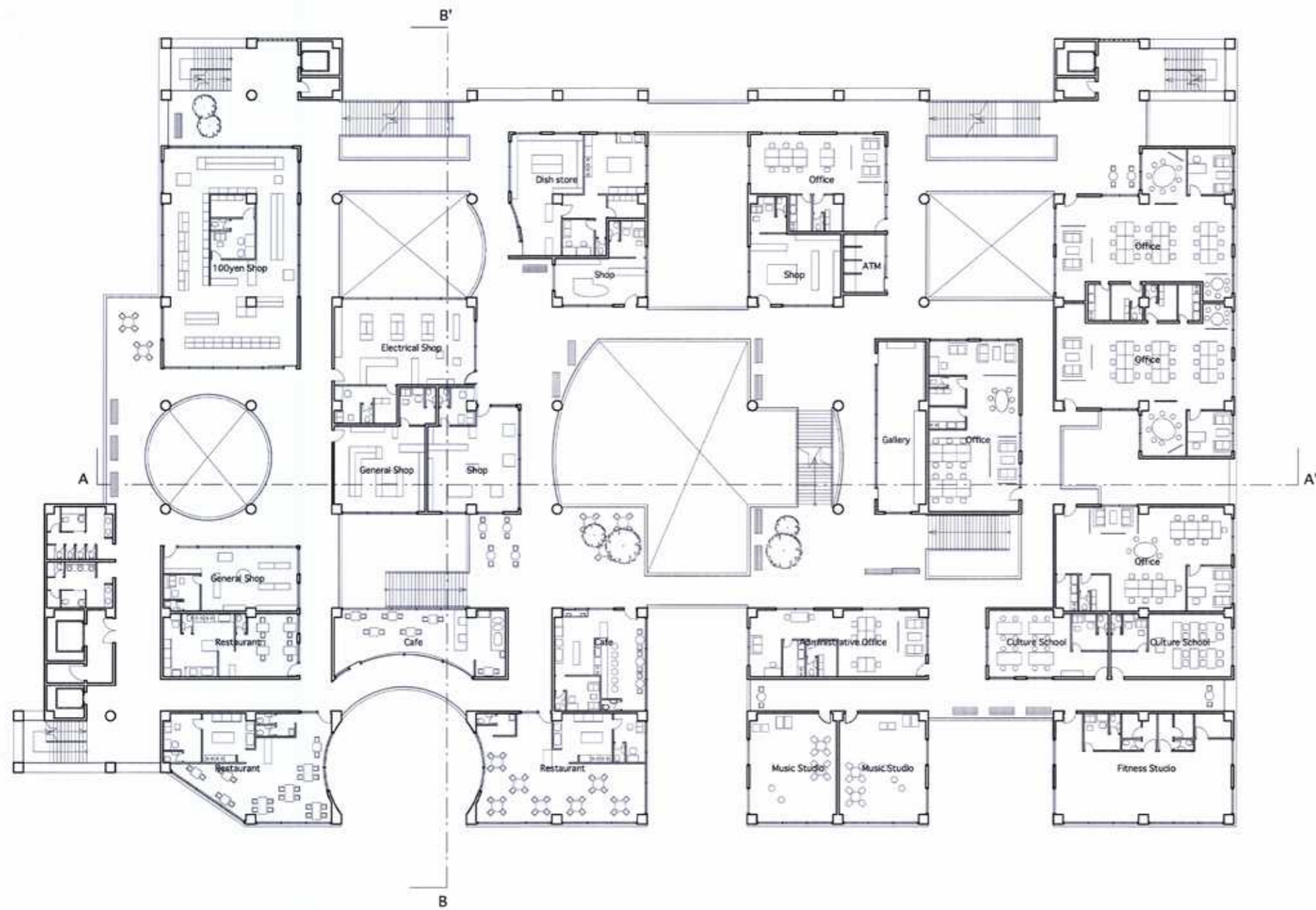
1st Floor S=1:200



Basement Floor S=1:500



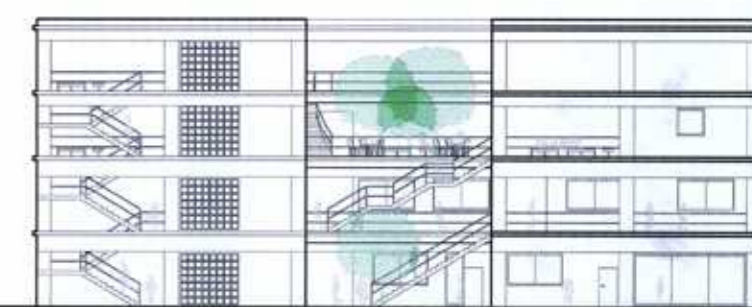
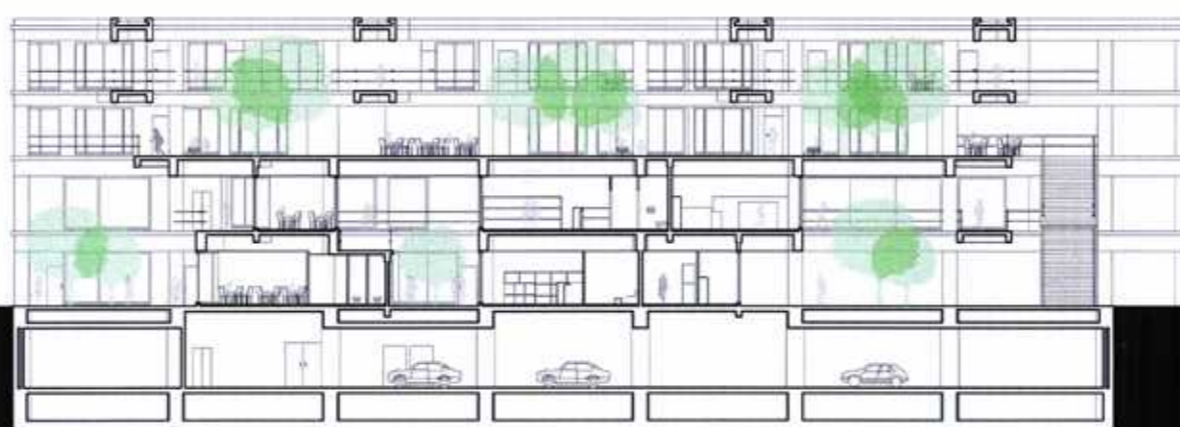
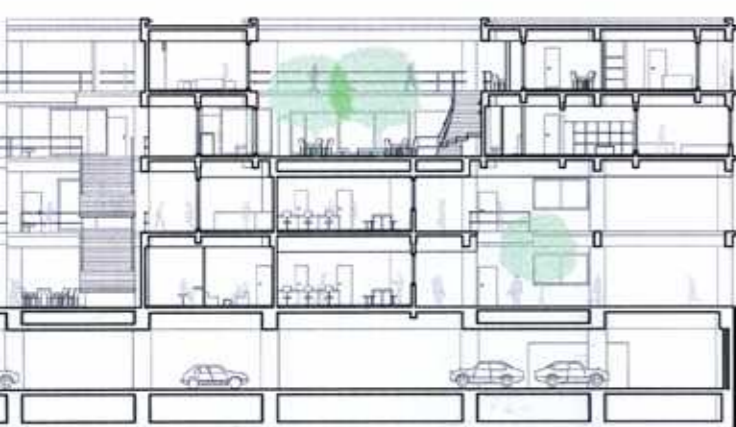
A-A' Section S=1:200



- Cafe, 飲食店
- Shop
- Culture School, Studio
- Office
- 日常生活支援機能

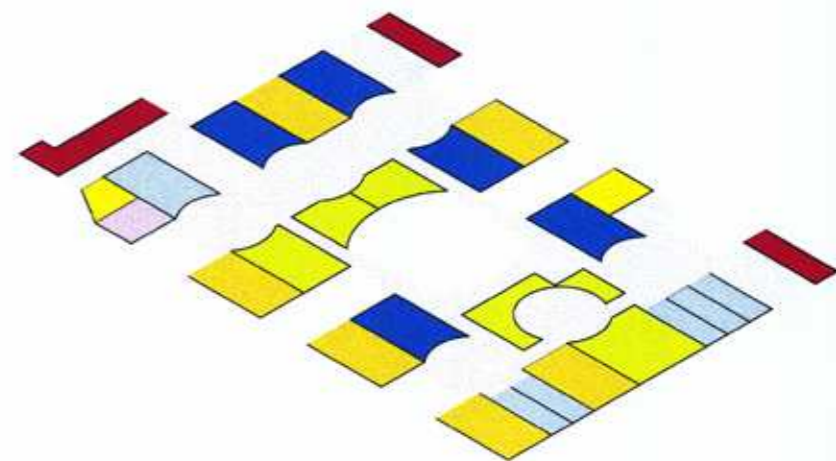
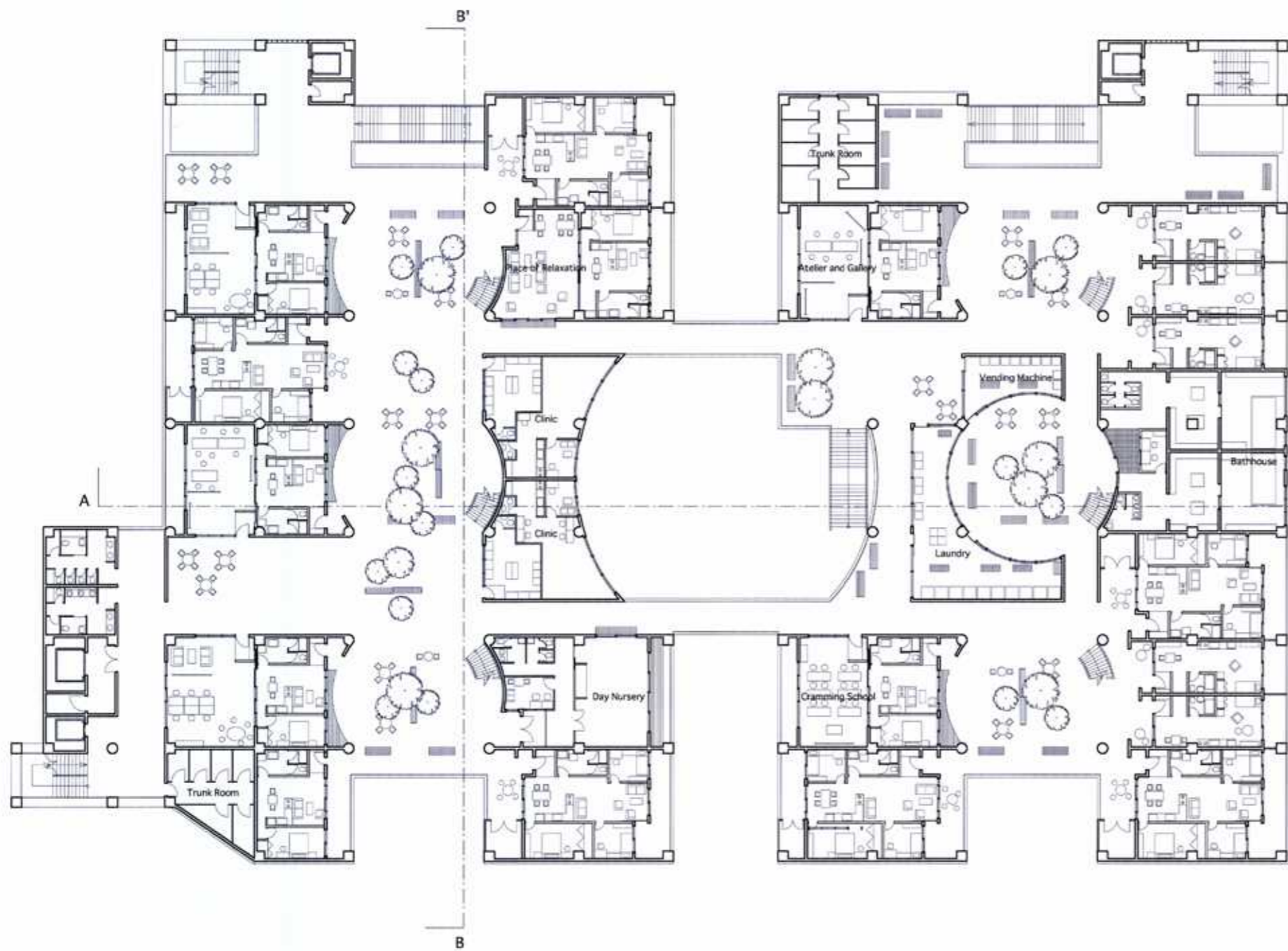


2nd Floor S=1:200



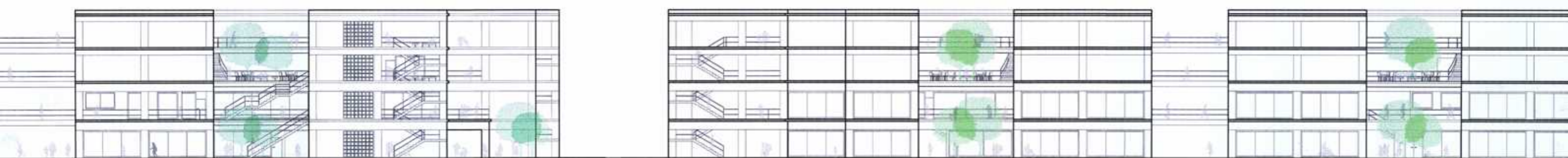
B-B' Section S=1:200

East Elevation S=1:200

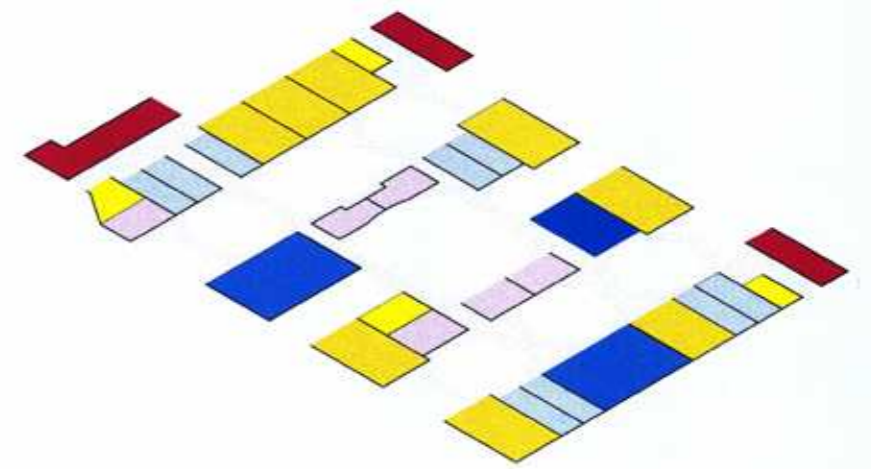
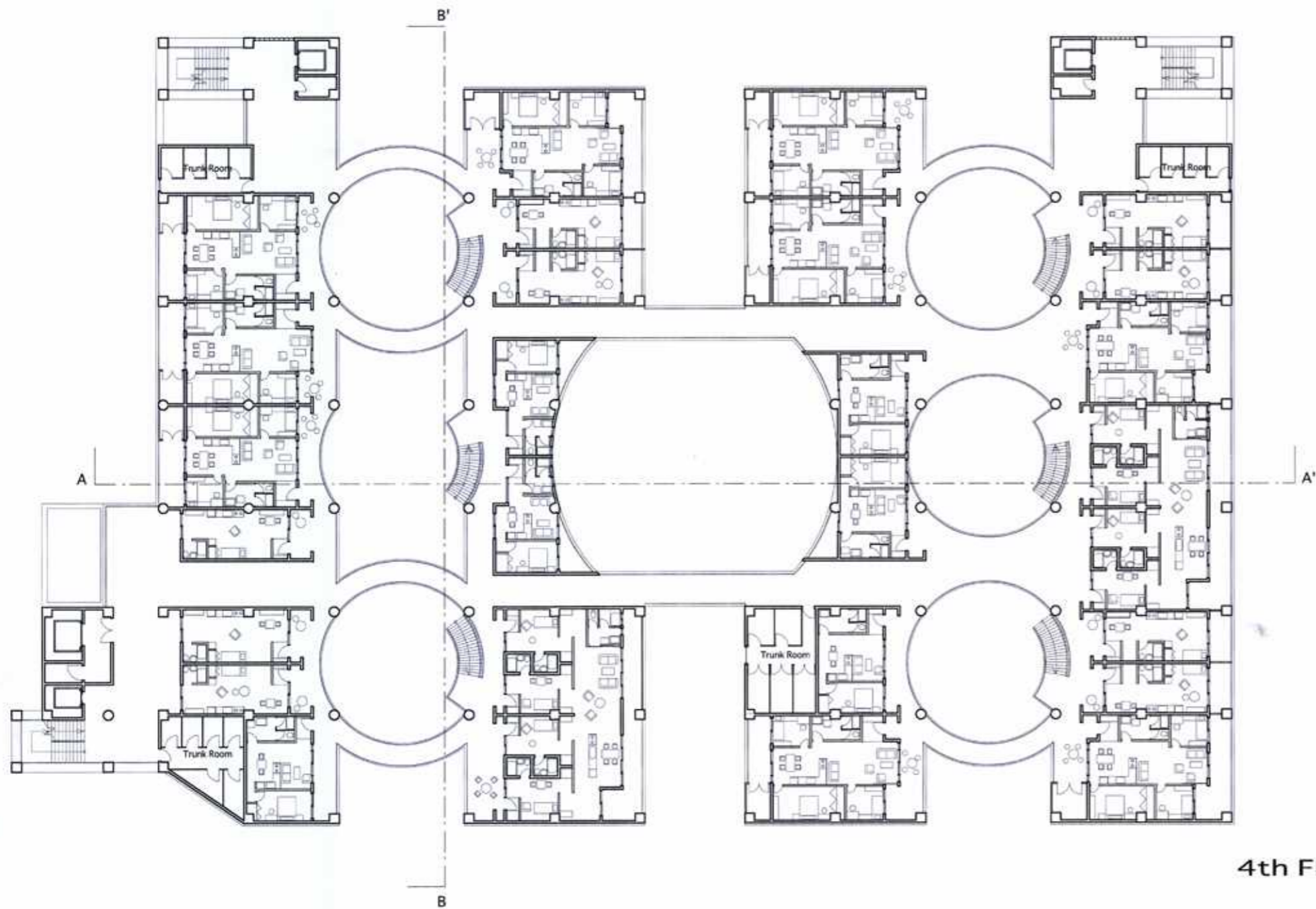


- ファミリーType
- SOHO Type
- Trunk Room
- 単身者
- 2人用
- サービス機能 (銭湯、託児所)

3rd Floor S=1:200

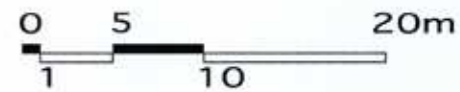


West Elevation S=1:200



- ファミリー-Type
- 単身者
- SOHO Type
- 2人用
- Trunk Room
- Group Home

4th Floor S=1:200



South Elevation S=1:200



North Elevation S=1:200